

エービーシー・マート(2670)



－ 第3四半期は減収減益 －

エービーシー・マートが10日に発表した第3四半期(2016年3-11月期)の決算は、売上高が前年同期比0.8%増、営業利益が同2.3%減となり、営業利益は上期(3-8月期)までの増益から減益に転じました。これは第1四半期(3-5月期)こそ8%近い増益となり順調なスタートを切ったものの、第2四半期(6-8月期)に続いて第3四半期(9-11月期)も減益となったため、第3四半期の減益幅は前年同期比10.2%減と第2四半期の8.5%減から拡大しています。

第3四半期は売上高も減収に転じています。第1四半期に前年同期比4.5%増だった売上高は、第2四半期にほぼ横ばいになると、第3四半期は2.6%減となっています。これは円高の影響で韓国を中心に海外事業が減収となるなか、国内の既存店売上高が台風上陸や曜日並びの影響、客単価の低下などで小幅なマイナスとなったことで国内事業の売上高も低い伸びに止まったためです。

通期予想は売上高、営業利益とも据え置きとなりました。その結果、第4四半期(2016年12月-2017年2月期)の売上高は前年同期比1.6%増収、営業利益は同15.0%増益が必要で、第3四半期から一転して増収増益が求められます。その第4四半期のスタートとなる昨年12月の既存店売上高は前年同期比で3.9%増と順調でした。通期計画達成に向けて1月、2月も堅調なトップラインを維持できるかがポイントとなりそうです。

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会